

みなさんは、オムライスの写真を見てどう思いますか?おいしそうだと思いますね。どうしてそう思うのですか?それでは、セミの幼虫を見ておいしそうだと思いますか?気持ち悪いですね。これもどうしてそう思うのでしょうか?人間は、経験をもとにして物事を判断します。オムライスは以前食べておいしかったからおいしそうだと思うし、セミの幼虫は見た目・気持ち悪い経験をしているのでおいしくないと思うのです。人間は経験則に基づいて物事を判断しています。言葉から象徴的に感じた事と過去に経験してきた事を交錯させて結論を出しているのです。これが経験則です。このどちらかに偏って物事を判断していると、感情的な人であったり、実際にそれを成し遂げないと信じないと言う人になってしまいます。ですから私たちは、この間でいつも相互の観測をしていかななくてはなりません。人間が新しい情報を手に入れてから新しい価値観を持つことができるのは大体25歳までで、思考回路を一貫してまいります。世の中の人々は人生も変えられなく、もう無理とあきらめます。しかし、環境がガラッと変わると思考も新しい回路を組み始めます。だから、環境を変えればいいのです。あなたは向きをかえられますか?(ルカ5：1～11)人間は「えっ!うそ?!信じられない!!」という経験をするのが大切です。ペテロもガリラヤ湖で信じられない経験をしました。彼らは夜通し漁をしていましたが一匹も捕れずに絶望していました。そこでイエスキリストに出会うのです。イエスキリストが舟に乗せてくれと言うのでペテロは乗せました。この時ペテロはまだイエスキリストについて行くほど信じていませんでした。母親の病を癒してくれはしたけれど今までの経験則に基づいて判断して「あれ?何となくすごいのかなあ?」程度に思っていました。そこでイエスキリストはペテロに「深みに漕ぎ出して網を下ろしなさい」と言われるのです。漁師ではない大工の息子に漁について言われたのです。ペテロからみれば「知りもしない奴が何を言いやがる!夜通し漁をして釣れなくて、日も昇り、大群衆に囲まれたんじゃ捕れるわけがない」と言っても良かったのです。しかしペテロには、少しだけ心を開く理由がありました。大群衆がみなイエスキリストの話を聞き、母親の病が癒された…だから「何となく、もしかしたら」と思うところがあったのです。みなさんはどうですか?今の現状がペテロの状況に似ているのではないのでしょうか?「何となく、もしかしたら、ちょっとは…」とってはいるけれども、はっきりしないし、今までの経験則に基づいて考えるとそれは聞きたくないし、過去からふり返ればあり得ないし、自分は「これをやれ」と言われて簡単に行動するわけにはいかないと思います。しかし教会では毎週あなたの経験則に基づかないメッセージがなされるのです。毎週言われるのはあなたが言われたことをやっていないからです。どうしてやらないのでしょうか?それは目から入ってくる経験則とあなたが象徴的に感じる経験則に基づいて「辛い、今までやってきて苦労した、今から苦労するのは嫌だ…」と考えてしまうのです。「今までこうやって生きてきた」というものがあって突然教会で「こうやって生きろ」と言われて「はい!分かりました」と言えるのでしょうか?なかなかそうはいきません。「こうやればうまくいくかも知れないなあ」と分かってはいるのですが、新しい状況を目の前にすると怖いのでやりたくない・受け入れたくないのです。ところがペテロはこれをストレスと思わずに実行したのです。そして捕れるはずがないと思っていた魚が大漁になったという信じられない・今までに経験したことがない現象が起こって「これは何かある」と確信して行く決心をしました。でもこのような現象が起こった理由はペテロが最初に網を下ろす決断をしたからです。世の中の大半の人は、この網を下ろす決断のできない人です。しかし私たちはこの網を下ろしてみようと決断できるのです。私たちが網を下ろすことによってその周りにいる人たちは何かを見ることが出来ます。私たちが信じて網を下ろせば、私たちの過去の歴史が全部変わります。そして私たちの周りにいる人たちの人生をも変えるでしょう。私たちが何かをするという事がとても大事だし、神様は私たちが何かをするようにと長い間語り続けているはずで、だから私たちがそれを信じて行動するかしないかが大きな差になります。この決断を先延ばしにしているとずっと今の現状のままで、過去を振り返ってみるとどうでしょう?良い実が残っているのでしょうか?振り返ってみて本当に充実して良い状態なら私たちは変わる必要がないでしょう。しかし自分が蒔いてきたものの成長を見てあまり良くないと感じるのであればペテロのように網を下ろすべきです。大切なことが見えない・するべきでないことをしてしまうのはもったいない事です。どういう状況で物事に取り組んでいるかで結果が大きく変わります。「大切なことは1つです。」とイエスキリストも言われています。大切なことを見失うと私たちがやらなくてはならないことができなくなり、どうでもいいことを追い求めてしまいます。「した方がよい・しなくてよい」という考えが交錯して、早くやった方がいいのに結局やらずに終わり、大事なことができないで最後に「もう遅い」と言われてしまう。とても残念です。私たちは失敗を繰り返していませんか?あなたは向きをかえられますか?経験則に依存せず新しい価値観を持って私たちは人生を変えるために①**現実**に捕らわれない。その都度神様から言われることは違います。また、自分のやりたい事とも違います。しかし、そういう時こそ自分にとってマイナスの道を選ぶことも時には必要なものも知れません。本当は、自分は何をどうするべきか薄々解っているはずで、プライドや過去の経験から自由になりましょう。②**深み**に出る。浅瀬の波の激しいところにいると先も見えずにもがいてしまいます。すこし沖・深みに出て環境を変えて客観的に見る必要があります。今の価値観を捨てて浅瀬から深みに漕ぎ出しましょう。③**ことば通り**信じる。やりもしないで文句を言ったり面倒くさがってやらない事が多いです。やるなら疑って行動するより信じてやるのが大事です。何事も恐れずプライドを捨ててやるべきです。そうするとエリヤのように素晴らしいことが起きます。(I列王18：43～45)完全でなくてもいいのです。からし種ほどの信仰があれば現実に捕らわれず深みに漕ぎ出し今の現状にもまれずに1つ距離をおいて私たちの行動をみる事ができれば何かを得ることが出来ます。結果、振り向くと私たちは多くのものを残し多くの人が私たちのつくった道を通ってまた新しい道を築くようになるでしょう。私たちは、生涯で必ず自分の通った道を誰かにバトンタッチします。その時悪いバトンを繋がないようにしましょう。私たちが諦めたりプライドゆえに行動しなければ後に続くべき人が続かないでそこで歴史が終わってしまいます。すべき事をやると私たちがたてた抱負もなりますよ。(要約者：行司佳世)